

天守閣から見た八代東部 『姫路名所案内』 大2.9.30 橋本政次 発行

天守閣から北を写したのもっとも古い写真。むこうに姫路中学校（左）師範学校（右）がみえる。左の森は東光寺で、寺の白い土塀も見える。船場川が右から左へ流れている。

手前の樹木は姫路城の上塁の木、白い5棟の建物は陸軍の火薬庫。（現 白鷺園あたり）。

9 大正時代

大正時代は十五年間、この間の八代の大きなできごとは大正十四年四月一日、城北村が姫路市に合併したことです。八代は城北村に属していましたが、この日から姫路市八代となりました。伊伝居にはすでに姫路師範学校、姫路中学校ができており、十二年から八代の西端から新在家にかけて姫路高等学校の建設が始まりました。八代東部の字町裏には姫路市の上水道の水源が計画され始めました。こうなると姫路市と城北村とが別々であることが不自然になってきます。そこで合併しました。姫路市が周辺の村と合併する最初です。

電灯ともる

北垣内に電灯がともったのは
大正三年、十燭光でもあかい

なあと、言っていました。

(渡辺弥市)

電燈がついたのもその頃で、それもどの
部屋にもという訳にゆかず、ランプも不用
にはならず、ホヤの掃除も私の受け持ち。

(自叙伝『八十星霜』 渡辺孝夫著)

田植えの事件

事件らしい事件もない平和
な八代ですが、大正五年に

は「正条植え」に切り替える田植えのこと
で八代は事件の発生地になりました。

「正条植え」というのは水田に綱をはつ

て、稲の苗をタテヨコとも直線に植えるこ
とです。それまでは「横植え」でした。思
い思いに横方向に植えていきますから苗が
直線に並びません。

正条植えにすると、収量も上がるので兵
庫県もすすめましたが、反対した人がでた

一 稲苗正条植事件

曩に本縣の獎勵方針に基く勸業施政中、共同苗代、稲苗正條
植に付是が實行を期し、農事の改良國民利福の増殖を圖らむと
努めたり。稲苗正條植は明治三十七、八年頃より郡農會と氣脈
を通じ、毎年町村長と熟議し一齊に實行の困難なるを認め、二
歩乃至三歩五歩と漸進主義を取り其の實行者に獎勵金を交付す
るの方法を執りし爲め、一般民に於ても諒解する所となり良傾
向を呈したり。依て更に町村長會に於て協議の上、大正四年よ
り郡内各町村を通じ一千名以上の稲苗正條植獎勵委員(町村の
推薦に依る)を囑託し、移植期に至りては郡長始め郡書記、技
術員等全部實地に就き指導獎勵したりしかば、如何なる山間僻
地に於ても殆んど豫定の實行を期し得たり。翌大正五年に於て
も同様實行に努め是亦大體に於て遺憾なかりしが、元城北村八
代部落何々某なるもの指導者の命に従はず剩さへ暴言を弄し

他の従順なる農民に悪影響を及ぼすの状況を呈したり。仍て同
人を郡衙に召喚し其の不心得を諭さんとしたるも出頭せず、依
て警察犯處罰令に依り官廳の召喚不應の故を以て告發したれば
姫路警察署に於て處罰に附せられたるも、本人は不服にして應
せず、遂に本訴を提起したるに、姫路區裁判所に於て原告の有
利に判決ありたり。翌年に於ても前年同様指導獎勵上異なりた
る點なかりしも、彼の城北村出來事の一件を傳へ聞くに至り茲
に實行困難となり、折角漸進的に兩三年間に亘り習熟せしめた
る稲苗正條植も遂に一頓挫を來せしは甚だ遺憾なりき。以來依
然獎勵に努めたりと雖も農民の自覺と自然に委するの止むなき
に至れり。

電灯の始まり

明治二〇、一一 東京に初めてともる

〃三、 姫路に電灯会社開業

〃六、一 姫路に初めて電灯
ともる

日露戦争後すこしずつ増加してい
たが、明治末期でも高価で、ランプ
がほとんどだった。

『関西電力五十年史』

ので裁判にまでなりました。

次の文を読むと、だいたいの様子がわかるので読んでみましょう。

この文は役所が書いたもので役所のつごうのよいように書いてあり、農民が反対したわけが書いてありません。ついに裁判にまでなりましたが、裁判官は農民を処罰するようなことはしませんでした。反対の理

由も知りたいものです。これ以後、正条植えはすぐには、ひろまらなくなったというのです。

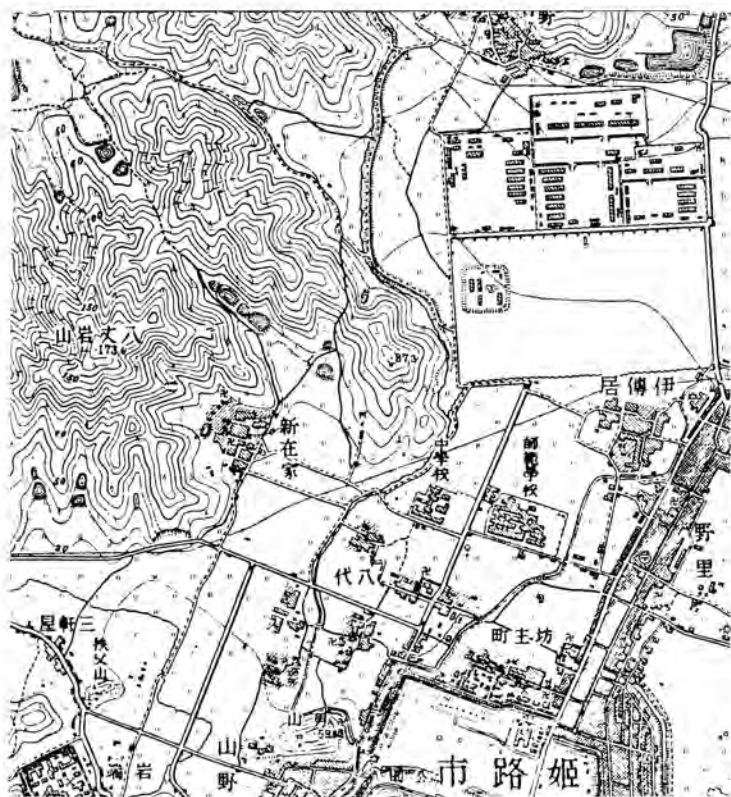
正条植えにすると、あとの「田の草刈り」に除草機が使えるし、秋の刈り入れにも手間がはぶけ、収量もふえる。昭和十年頃には「正条植え」ばかりになるし、五十年ごろから「機械植え」になる。この文で、「正条植え」に農業技術が改良されていくあしどりがわかる。



正条植え（昭31 八代富士才町777を写す）

今のチビッコ広場のところ。

張った綱は写真には見えないが、綱と綱との間に四株、後ろへ後ろへ植えていく。五株ずつ植える人もあった。綱を張っていても、タテヨコをよく見ないとまちがってしまう。腰をかがめての作業は重労働。



姫路北部 25000分の1地形図 大正12年測図

昭22.8.30 発行 地理調査所

大正12年ごろの様子わかる。旧制姫高は、まだ記入してないが、その周辺の道は出来ている。戦後でも、この地図が売られ、郷土研究のよりどころになっていた。

◀城北練兵場に来た飛行機（大一〇、一一、一二）

河野孝幸氏 提供

右に三機、左に一機みえる。四機とも胴体といえるほどの胴体ではない。左のテントは飛行機を入れる格納庫なのだろう。中央に松と記念碑、明治三十六年の観兵式に天皇がお立ちになった所。



飛行機はじめて飛ぶ

大正三年五月二三日、姫路の空に初めて飛行機が飛んだ。飛行家の高左右隆之飛行士が神戸又新日報の招きで行った催しで、城北練兵場を発着地にして、午前・午後の二回に分けて飛行した。飛行範囲は、練兵場を飛び立ち、市川に沿って南下し、飾磨から西に向かい、夢前川沿いに北上するといった。飛行当日には、国鉄では臨時列車を増発、運賃も二割引となり、練兵場は初めての飛行機を一目見ようと、押すな押すなの大人気。飛行開始の号砲を合図に大空高く飛び上がった飛行機に大きな歓声が上がリ、町中の人びともどっと飛び出し、飛行機を見上げて、手を振った。

このころは、飛行機といっても、上下に翼があるプロペラ式で、六十馬力のエンジンを積み、主翼の長さは、九・七五メートル、幅は、一・四四メートル、滑走距離四五・七二メートルで、胴体も運転席もむき出しのままというものだった。

また、大正五年には、陸軍の飛行機四機が所沢から城北練兵場に着陸。さらに六年には、鷺城新聞がアメリカのアート・スミスを招き曲芸飛行会を催すなど飛行機は姫路市民にとって次第に馴染み深いものになっていった。『姫路百年』

大正十四年四月三十日、師

飛行機不時着

範学校の東の田へ民間機が

おちた。二人乗りで飛び立って間もなくエンジンの故障で引き返そうとして不時着した。

（ふるさとの思い出写真集 姫路 高橋秀吉 編）

私はこの飛行機が家の上を飛んでいたのを見たという記憶はなくなっていました

が、姉妹たちが

「飛行機がおちた」

とガヤガヤ、姉妹たちの姿が見えなくなつてしまった。たぶん兄に走って行つたのだろう。

しばらくすると東の船場川ぞいに赤い毛布を屋根形にして、前後を二人で毛布にとおした棒をかつぎ、そのほか二、三人も南の方へ走るようにして行つた。

「落ちて怪我した飛行機乗りを赤十字へつれて行きよつてんや」

と姉の説明。

付属小学校の職員室の前の廊下の壁に、私が卒業するまでプロペラと翼が掛けてあつた。後日それは、あのとときの飛行機だと姉から知らされた。

(矢内 澄)

乗合自動車 バスのさきがけとなつた乗合が走る 自動車は、明治四一年姫路駅前

前へ八代新道へ軍人橋を走りまし(↓147P)。しかし一台の車だったので一年たらずでやめてしまいました。

八代新道を本格的に走りはじめたのは大正七年からのこと、昭和十二年以来神姫バスになりませんが、それより前はいろいろな会社のバスが走っていました。次にそれらの会社のバスを見ましよう。

山陽自動車 大正七年創業、昭和十八年神

(バス) 姫に合併。

大正七年十月、山陽自動車が縮町―白国間で営業を始めた。つづいて藤森自動車、フタバ自動車、姫路自動車商會などが乗り入れ、それまでの乗合馬車や人力車業者も加え、はげしい客ひき競争をくりひろげた。

(昭六三、二〇、二九 神戸新聞)

藤森自動車 大正十一年創業、昭和九年神

(バス) 姫に合併。

大正十二年ごろから駅前へ軍人橋を運賃二五銭で、所要時間二十分。運行時間は6時―11時まで一時間ごとに。

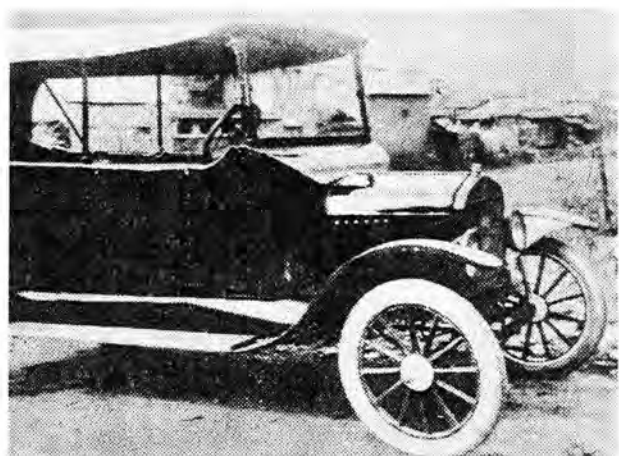
(神姫バス五〇年史)

姫路自動車 大正十一年創業、昭和十二年

(バス) 神姫に合併。

マッチのレットル (東塚 弘蔵)

藤森
タクシー
本店
姫路市本町
FUJIMORI
TAXI
電 本社 { 748 }
 { 1725 }
話 駅前 (445)
 野里 (1704)



大正時代の最新型フォード社製リムジン
姫路の街中もかけ抜けた。シャーシはアメリカ製、
ボディは日本製。(昭63.10.29 神戸新聞)



山陽自動車 (高橋秀吉 写)

本社は飾磨郡安室村、社長は渡邊重次。

路線は山之内、山崎、龍野方面、市内では

裁判所(当時は岡町)、(官立姫路)高等学校、(姫
山)公園前、野里駅。(『兵庫県人文記』)

神姫バス

昭和十二年から姫路駅前、野里
循環が走りはじめます。これと

は別に、駅前、小利木町、筋違橋を渡って
船場川ぞいに八代交番、姫路中学校まで、

中学校の南東角で折り返していました。

「やがて人手不足になったのでしよう。

女性の運転手になりました。「ハイカラな女
性やな！」と思っていました。姫中では汽

車通学の生徒でも「姫路駅から歩かないか
ん」とバスに乗るのはかたく禁止されてい
ました。」
(矢内 澄)

官立高等

官立高等学校は明治十九年以
学校の増設 来つぎつぎ建てられ、校名は

建った順に番号でよびました。一高（東京）

二高（仙台）、三高（京都）……というように、

明治時代には八高（名古屋）まで八つできま

した。大正七年、もつとふやそうというこ

とになり、大正十五年までに十七校でき、

校名には土地の名をつけました。

兵庫県にもつくることになる、さてど

こにするか。神戸または明石という意見も

でしたが、西播磨の中心であり、また地

元の熱心な要望と援助があつた姫路にきま

りました。

官立姫高の誘致

高等学校を姫路に置きた
い、場所はどこがよいか、

はやくから立ち上がったのは当時の安室村

長池内吉松（新在家在住）でした。彼は東隣

の城北村ともよく相談したようです。

「城北村伊伝居には明治時代から師範学

校や中学校ができています。高等学校をつく

るには、この近くがよい」というのです。

今の城北幼稚園の所にあつた城北村役場で

も、たびたび会議がおこなわれたようです。

彼は姫路市役所へも相談に行きました。こ

うして今の姫路短大の地にできたのです。

母からの聞き書き 矢内 澄

そんな時には役場に近い私の家に立ち寄

り、母に「いまから市役所へ行くから人力

車を呼んでくれ」と。母（池内吉松の姪）は野

里門にある人力車の丁場（溜まり場）まで走

って行きます。電話がなかつた時代のこと

です。

また父（城北村収入役）に「おまえも力いれ

よ！学校ができたなら八代もようなるで！」

予定地の地下水の検査があると、いつとき

万一、不合格になつてはいけないというの

で「コシの清水をピンに入れて出しといた」

と。

コシの清水とは梅ヶ谷地藏の前にわき出

ている「御所の清水」のこと、昔から播磨十水

の一つに数えられていた名水です。



Die vornehmste
Schneider

Damasati und
Gesellschaft

山崎洋服店 553

洋服店の広告マツチ
姫高の陵歌を書いている。
（矢内 澄蔵）

校舎の建設

大正十二年四月から学校の工事が始まりました。

「自転車に乗せてもらって新在家からの帰り道、南へまわると、おおせいの人夫がツルハシで山の斜面を崩しています。土をトロッコに積んでいる人もいました。東を見



昭和初めの姫高校舎と講堂 左端は食堂と寮
(関 博 旧蔵 田制姫高同窓会館 蔵)

ると広いところが一面に黄色になっています。よく見るとレールがむこうのほうまでつづいています。しばらく見ているとトロッコが動きだし、人がとび乗って、ゆるやかな斜面を走って行きました。面白いなあ！と思いました。」
(矢内 澄)

校舎ができたのは十三年七月、講堂ができたのは十五年十月でした。

廃校 第二次世界大戦後、学校は六・三・三・四制になったので、姫高は昭和

二十五年三月で廃校となり、二十七年の歴史をとじました。その概略は姫路短大の中にある「あ、白陵の碑」に記されています。昭和二十四年から神戸大学姫路分校になり、一年間は、姫高生と神大生がこの校舎で勉強しました。四十年から姫路短期大学になります。

校舎と講堂とは同窓生たちの強い願いで残され、今は姫路市が「都市景観重要建物」に指定して永く保存することになっています。

開 校 式

入学したのが翌年の四月。校舎が完成したのがその秋とは言っても荒寥たる水田埋立地の一本、草もない土地に本館だけがポツンと建っている状況で、その翌大正十五年十一月十二日、応すべての建物が揃ったのを待って盛大な開校式が行われたが、忘れられないのがそのアトラクションに東京音楽学校の男女学生十数名の合唱団を招いたことがある。

羽織袴にリボンを着けたキラヒヤカな女生徒たちの姿とい、その時の曲の一つ「魔弾の射手」の独逸語の発音の美しさとい、文字通り魅了されたしまった。

「八十星種」 渡辺孝夫 著

イキな西洋館

官立姫路高等学校外人講師の官舎として大正十五年に、八代富士才町と八代御茶屋町に二棟建ちました。

屋根はスレート、玄関には取付けのベンチがあり、ドアをあけると斜前に手すりのついた回り階段。一階にも二階にも暖炉があり、煙突が棟の上につき出ています。



昭63.1 奥山武雄 画



富士才町にあった洋館

間口約10m。左方0～3mあたりは改造されて、窓があったかなかつたか不明。内部は女中部屋だったらしい。

建築中、大工さんが帰ったあと近所の子たちと、そつと二階へ上がると垂直のハシゴがあつて屋根裏へ。屋根裏は物置、つまり三階建、たいへんイキなものでした。でも日本の夏の暑さには不向きで戦時中、御茶屋町の洋館に住んでいたドイツ人ボイエルラインは

「あの家 とても 暑いです」

と云つて富士才町の和風の官舎に引越しました。

(矢内 澄)

富士才の洋館は、戦後日本人が住むようになってから南側をすっかり縁側に大改造しました。昭和六十三年二月にとりこわされて跡地は八代富士才公園になり、御茶屋の洋館は平成四年三月にとりこわされました。



御茶屋町の洋館
南東より見たところ。平成4年3月にとりこわされた。

大正天皇の崩御

私が小学校一年生にあがる前、家族がいつもとは違う何やらザワザワしているような雰囲気を感じました。

のち黒いリボンでチョウウの羽のように結んだものを羽織の襟につけてもらって

「これから毎日これをつけとくんやで取ったらいかんで」

と言われました。胸にこんな物をつけるのは初めてのことで、うれしくなってあたりを走りまわったり、近所の人にも見せびらかしました。隣の姉さんからも

「それだいいじなもんよ」

とも言われ、それからだいぶん長い間つけていました。」

(矢内 澄)

大正天皇御大葬御歌

芳賀矢一 作

一、地にひれ伏して 天地に

祈りしまこと 容（い）れられず

日出する国の民はみな

あやめもわかぬ 闇路ゆく

二、大御葬（おおみほふり）の 今日の日

流るる涙 はてもなし

如月（きさらぎ）の空 春あさみ

寒風（さむかぜ）いとど 身にはしむ

大正天皇は大正十五年十二月二十五日崩御、

昭和二年二月七日御大葬。

思いだしたままなので、まちがいがあっても

しれない。

(姫路老大OBから)

年	〈城北村のできごと〉			
1				
2				
3	5.21 城北練兵場へ飛行機がはじめて着陸			
4				
5	陸軍の飛行機が所沢から城北練兵場に着陸			
6	兵庫県飾磨郡城北村○○と表示（ノ内○○村をやめて） 広峰山を広嶺山に改称	戸数621	人口13669	
7				
8	広嶺山登山道に電灯設置を発議（昭5完工）			
9				
10	1.14 城北練兵場へ飛行機がくる 4 飾磨郡城北尋常高等小学校と改称	世帯数783	男2054 女1828	人口13275
11	城北村道路元標を立てる			
12				
13				
14	4.1 姫路市に合併	世帯数1064	人口15009	
15				

大正時代年表

大正	〈八代のできごと〉	〈社会のできごと〉
1	(1912) 大歳神社の今の参道ができる 12 善養寺の本堂が焼ける	7.30 大正元年となる
2		
3	電灯が北垣内にともる 狭河の西村水車が 田麻水車になる	世界大戦
4		
5	姫路駅ー梅ヶ枝町に乗合自動車開通	
6	城北村ノ内八代村から城北村八代と表示が 変わる	
7	10.5 山陽自動車(バス) 綿町～白国を走る	米騒動
8	善養寺再建	ヴェルサイユ講和会議
9		
10	八代倶楽部を中垣内に建てる 日ノ本女学校が約五千坪(今の城乾幼小の 地)を買う	
11	城西6号線(短大ー景福寺山)の用地買収 行者堂を東光寺から芝崎山へ移す	自転車に乗る人ができはじめる
12	このころ藤森乗合自動車 駅前一軍人橋で営 業 9 尾上久三郎847-2の土地を大歳神社に寄付 し境内前の広場をつくる	郡制廃止
13	城北65号線(短大ー坊主町)できる。 7.20 姫高校舎竣工	
14	4.1 城北村が姫路市に合併、姫路市八代と なる 梅ヶ谷地蔵に玉垣をつくる このころ大歳神社社務所を新築	
15	(1926) 6.22 城北81号線(白川裏から西へ) の建設願いを県へだす 町裏水源地で地下水の揚水試験 10.30 姫高講堂竣工 姫高官舎(5 御茶屋・ 9 西八代・11 富士才) 竣工	12.25 昭和元年となる